就業構造の変化による象徴的境界の変容

－南砺市荒木のねつおくり祭りを事例に－

富山大学人文学科
社会文化コース人文地理学研究室
12110116 野澤颯人

Ⅰ はじめに

1. 問題の所在と既存研究

民俗行事の象徴的な境界

-生活領域の内と外を区分-

- 「地理的/社会的境界」(鳥越 1976)

- 「行政的村境/精神的ムラ境」(小口 1985)

Ⅰ はじめに

1. 問題の所在と既存研究

民俗行事の象徴的な境界

・意識や生活様式の変化によって消滅（浜谷1988）

・状況によって異なる相対的なもの（吉田1977）

境界は祭礼地域や担い手の変化によって
異なる様相を示す

Ⅰ はじめに

2. 研究目的と方法

目的: 地域祭礼が象徴する境界の変容を，高度経済成長期の就業構造の変化に着目して検討し，それが変容に及ぼした作用を明らかにする.

研究対象:南砺市福光町荒木のねつおくり祭り

方法:荒木の自治会会長の他祭礼の関係者3名に聞き取り

Ⅱ 研究対象概要

1. 南砺市荒木集落について

南砺市

2004年に4町4村が合併し誕生。富山県南西部に位置.

荒木

南砺市の北部に位置。人口は1,299人（令和6年12月時点）となっている.

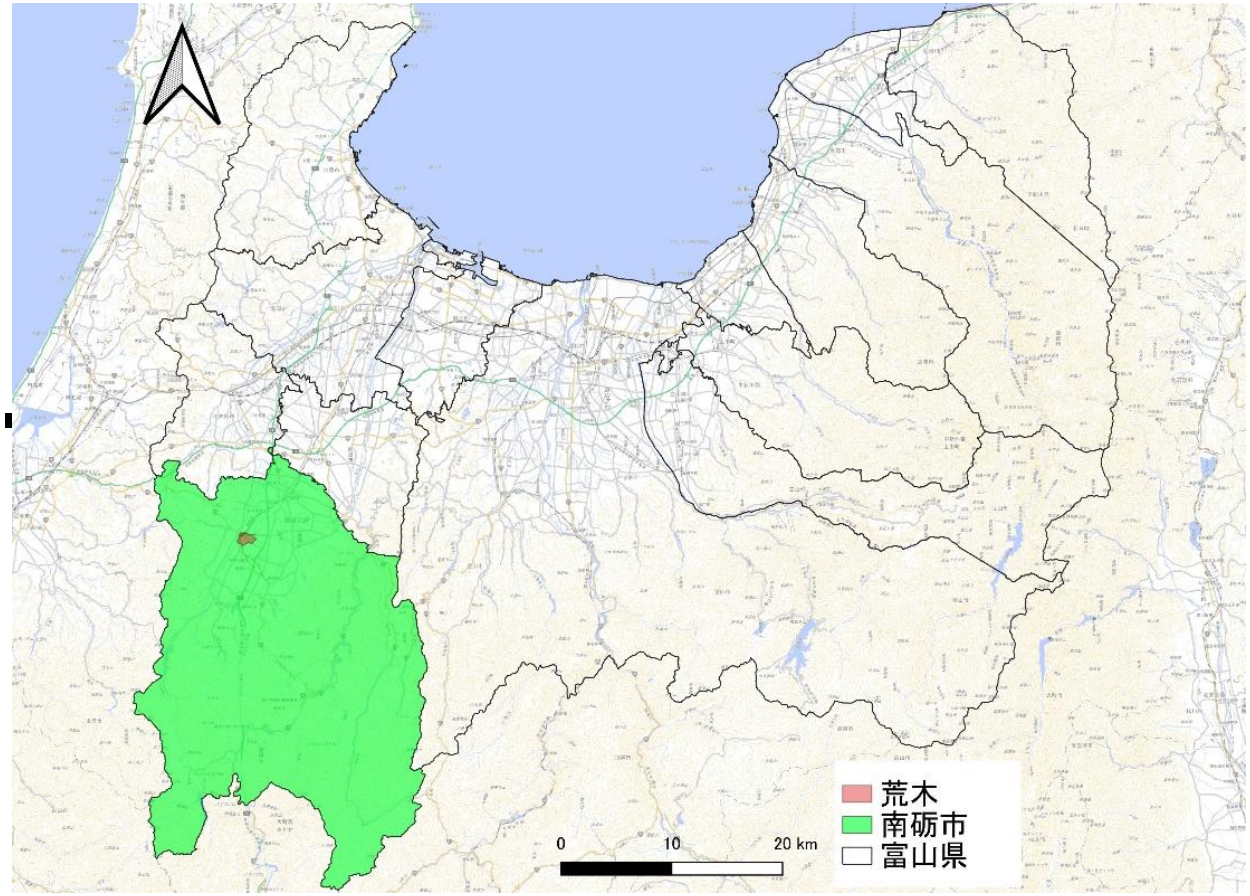

図1 南砺市

（国勢調査により作成）

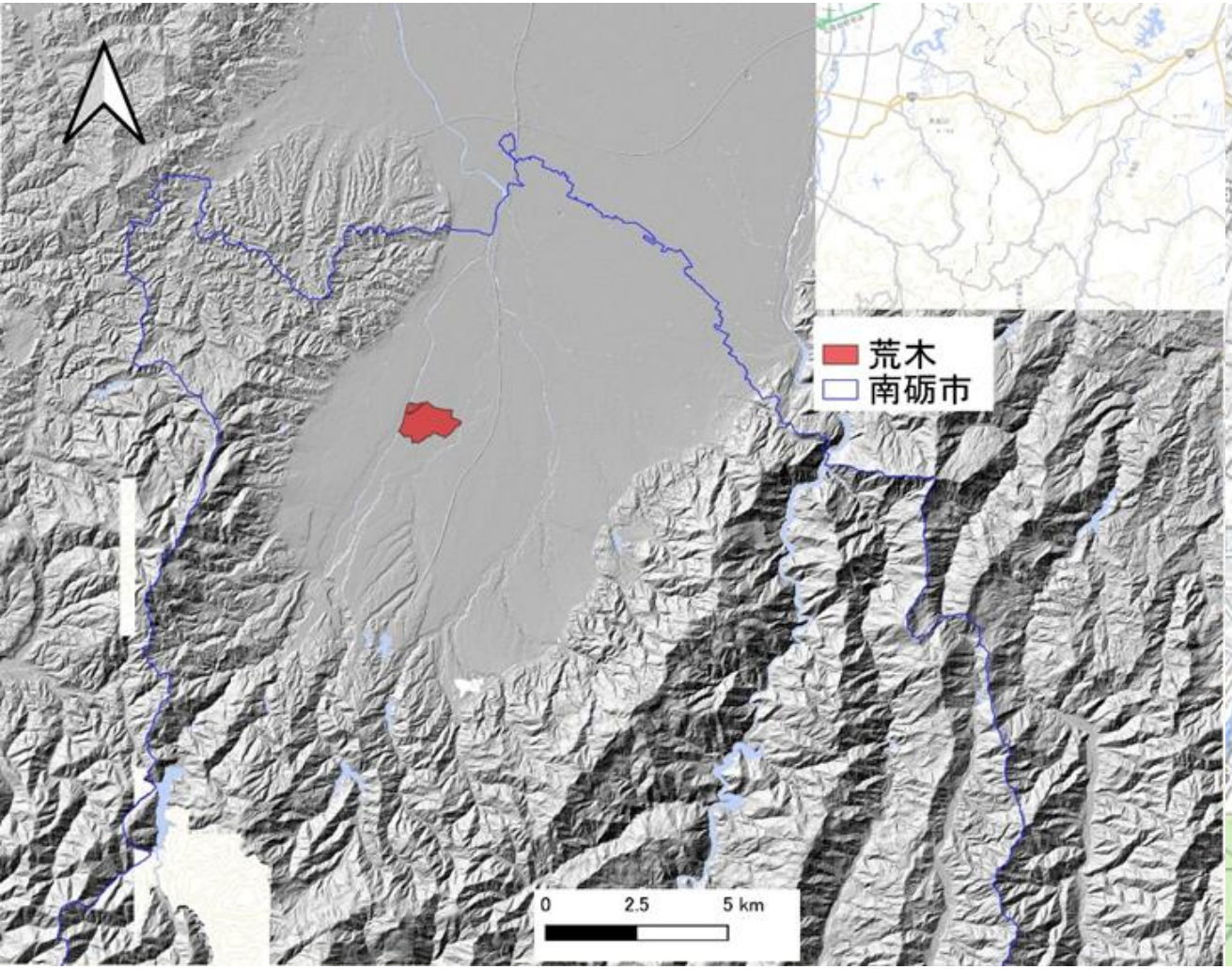

図2 南砺市の地形

（国勢調査，国土地理院発行数値標高モデルにより作成）

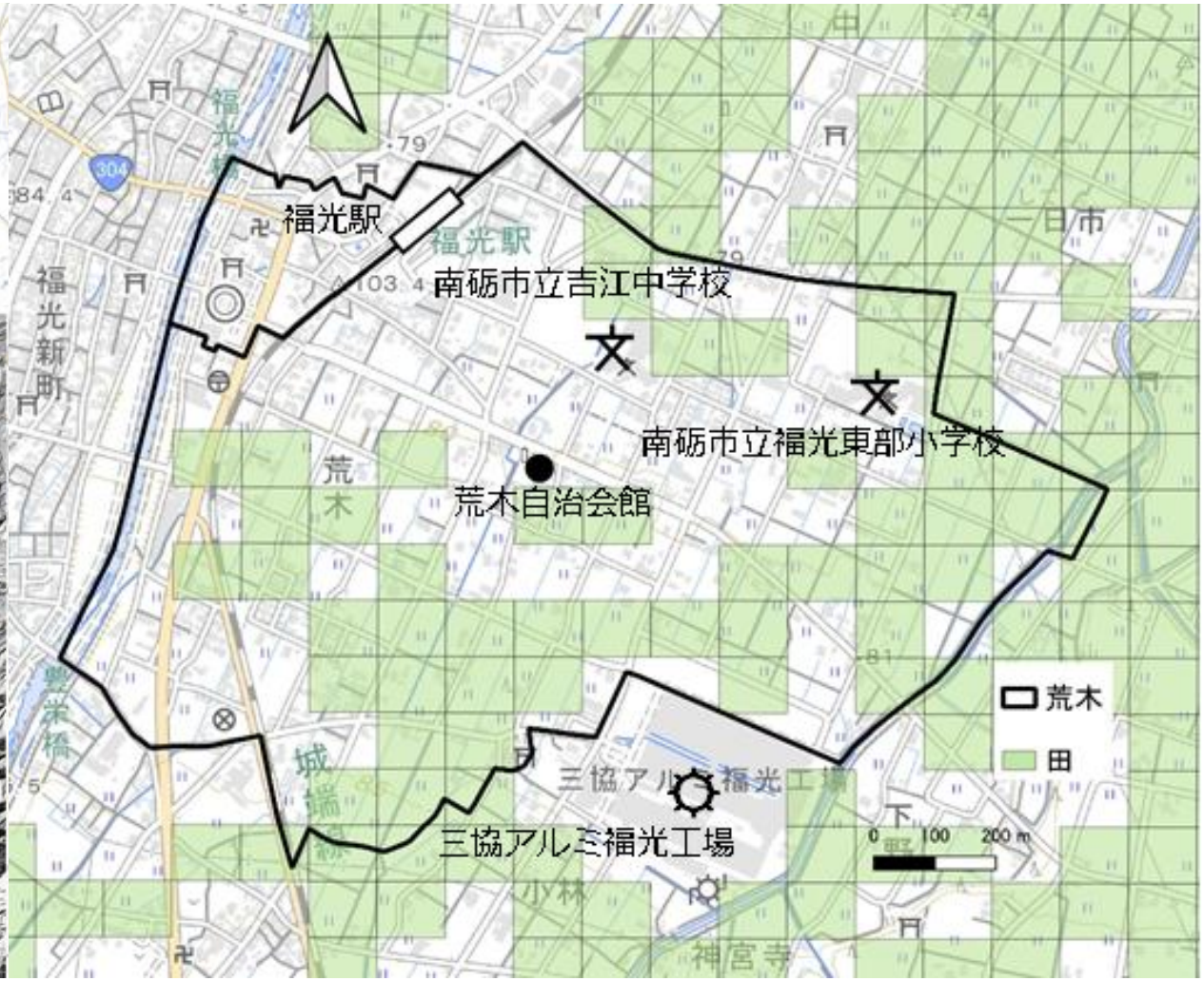

図3　荒木

（国勢調査，国土数値情報土地利用細分メッシュデータデータより作成）

Ⅱ 研究対象概要

2. ねつおくり祭りについて

南砺市福光地域で、７月の土用の三番に行われる祈願祭。

盆地状の地形が湿気を滞留→稲熱病＝ネツが発生
自然の天候による病害虫の防除を祈念

御神体とともに集落中を回り田からネツを払う
「ねつおくるばーい」

丸木荒

Ⅲ就業構造の変化と祭礼への影響

1．高度経済成長期

荒木 1952年～

農作業の機械化，余剰労働力の発生（新藤 1970）

化学農薬の普及

吉江村 1950~70年 兼業農家がほとんどに

荒木 1980年までに専業と第一種兼業従事者が大きく減少

表１　吉江村・荒木の農家の兼業状態

	1970			1980			1990					
	吉江村			吉江村			吉江村			荒木		
	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数
29日以下　(人)	231	98	329	253	256	509	252	261	513	69	72	141
30～59日	126	105	231	130	117	247	113	114	227			
60～149日	114	128	242	92	104	196	83	62	145	17	10	27
150日以上	105	140	245	26	29	55	29	24	53	3	2	5

(年)

（農林業センサス，農業集落カードにより作成）．

Ⅲ就業構造の変化と祭礼への影響

1．高度経済成長期

1960年～ 各地でねつおくりの簡略化、廃止

（加藤2020）

荒木では担い手が減少（聞き取り）

- 農業労働力の非農業部門への転用
- 主な生産活動の場の移行
- 農薬の普及

祭礼の必要性が問われ，担い手が減少

Ⅲ就業構造の変化と祭礼への影響

2．担い手の不足と祭礼の維持

1969年 荒木ヘアルミ工場が進出，女性の兼業化

ねつおくり太鼓打ちコンクールの中断，廃止
→担い手の減少で伝統の継承が困難に

2000年代以降，担い手が非農家に(聞き取り)

農薬の普及と兼業化が厄災除けを
必要ではなくした

表２　吉江村・荒木の日数別農業従事者数

	1950	1960	1970		1980		1990		2000		(年)
	吉江村	吉江村	吉江村	荒木	吉江村	荒木	吉江村	荒木	吉江村	荒木	
農家総数　(戸)	343	340	339	78	333	77	287	59	230	48	
専業　(人)	163	95	17	54	11	8	12	5	12	記録なし	
第一種兼業 (人)	136	157	129	135	33	71	10	63	8		
第二種兼業 (人)	44	84	193	141	289	168	265	124	189		

（農林業センサス，農業集落カードにより作成）．

Ⅳ 祭礼が示す境界の変化

ウチとソトを区別するねつおくり太鼓道

→農民の「精神的ムラ境」

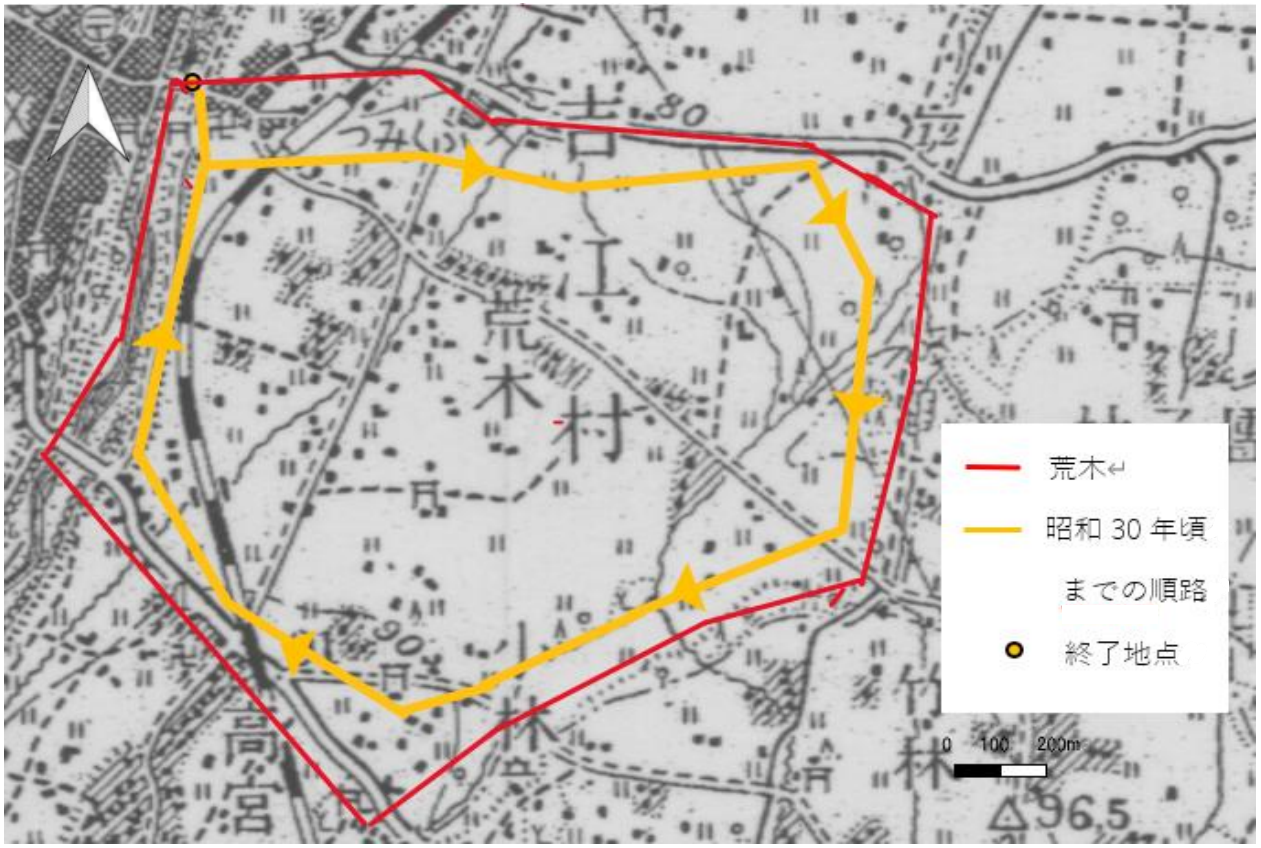

図4 1955年ごろまでのねつおくり太鼓道

（聞き取り調査により作成）.

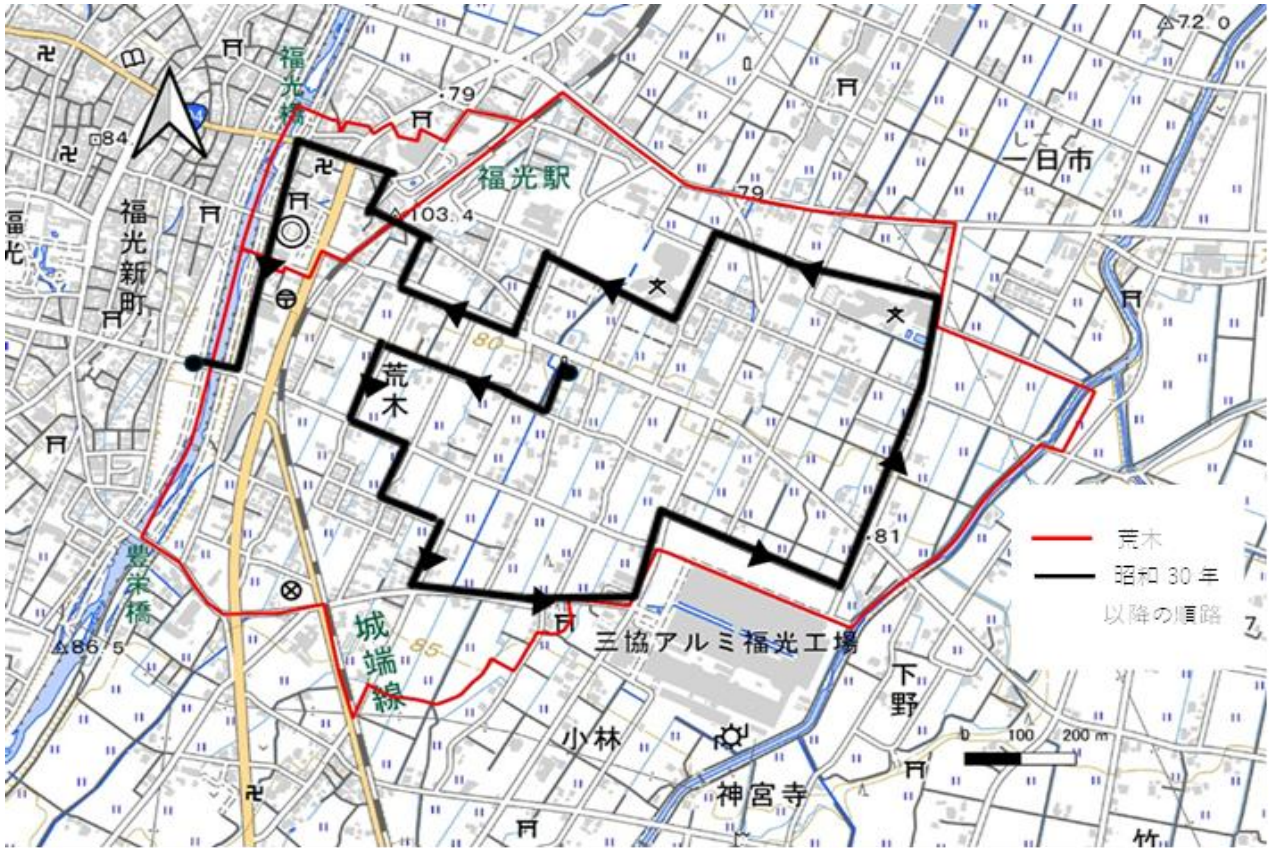

図5 高度経済成長期以降のねつおくり太鼓道

（国勢調査，聞き取り調査により作成）.

Ⅳ 祭礼が示す境界の変化

精神的ムラ境の変化-農業労働力の減少が関係

兼業労働の主体化，耕地面積の減少

渡辺(1958) 兼業者の増加は土地利用の粗放化を
現象化→耕地面積の減少に

農民の社会空間の希薄化

↓

精神的ムラ境を象徴するねつおくり太鼓道の短縮

Ⅳ 祭礼が示す境界の変化

図6 令和6年度のねつおくり太鼓道

（国勢調査，聞き取り調査により作成）.

2011年 6キロ
2012年 5キロ
2013年
～
2016年 4キロ
2024年 2キロ

Ⅳ 祭礼が示す境界の変化

繰り返す順路の短縮→精神的ムラ境の消滅

- 集落の都市化
- 兼業化による生活様式の都市化

浜谷(1988) 民俗的境界は意識や生活様式の変化によって消滅する

倉沢(1987) 村落の都市との生活様式の差異は
「個人的自給自足性の高さ」

農家の社会空間の希薄化・生活様式の都市化・農家の減少
→境界認知の消滅，順路の短縮へ

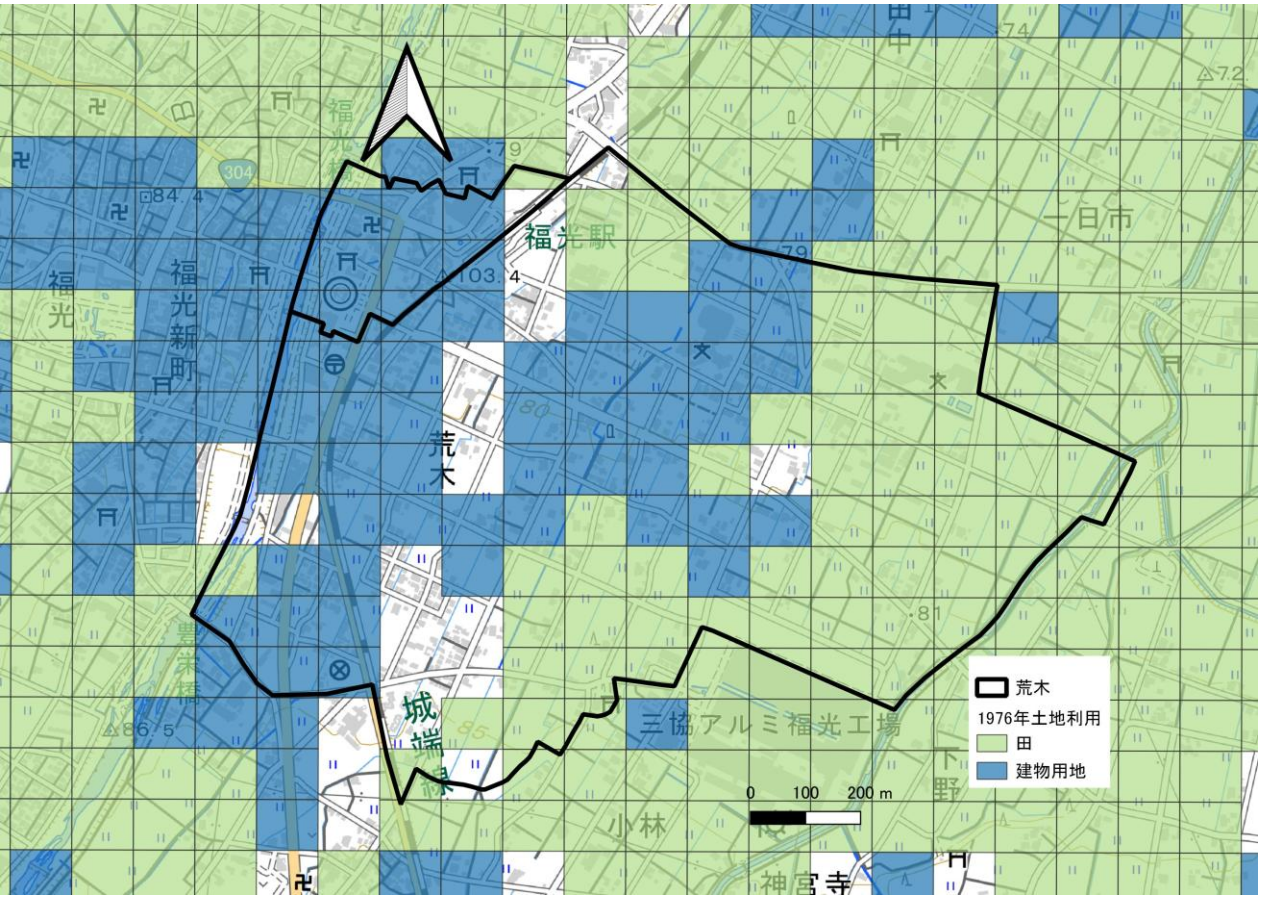

図7 1976年の荒木の土地利用

（国勢調査，国土数値情報土地利用細分メッシュデータデータより作成）

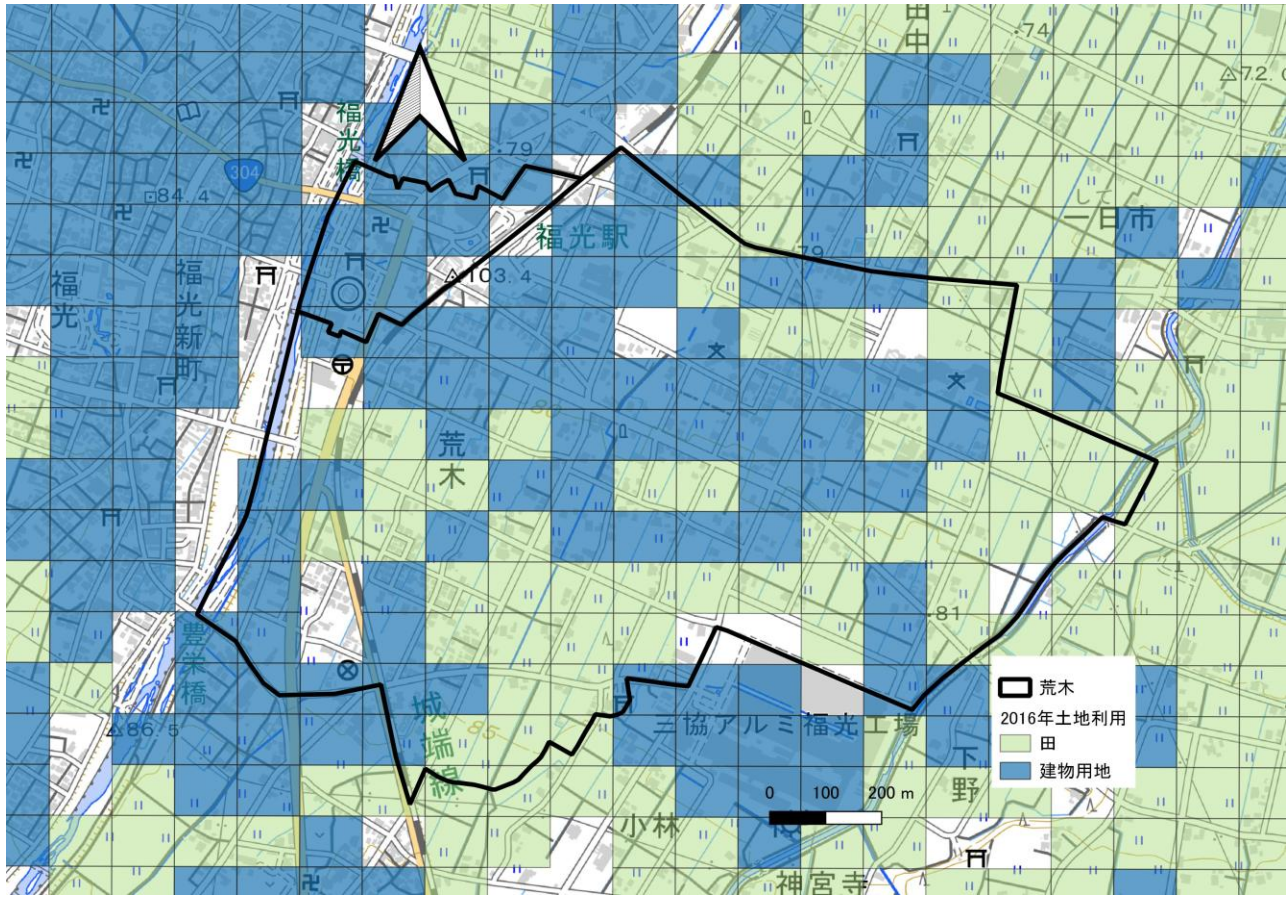

図8 2016年の荒木の土地利用

（国勢調査，国土数値情報土地利用細分メッシュデータデータより作成）

Ⅳ 祭礼が示す境界の変化

非農家には農家の境界認知が存在しない

　時間短縮や参加児童の負担軽減が優先

　一部工程の省略や順路の短縮

→混住化による担い手の変化の影響

農業労働力の減少や社会空間の希薄化，生活様式の都市化や混住化が精神的ムラ境の象徴に作用していたと考える

Ⅳ 祭礼が示す境界の変化

演奏場所－ネツのムラへの侵入を防ぐ場所－の変化

本来は「境の場所」となる辻で演奏(西村 2013)

辻:未知との第一次的な接点、この世とあの世との露頭(高取1972)

「境の場所」(八木 1984)

生活世界以外の世界への回路となる象徴的な機能

社会意識にある内/外の二元的枠組の秩序を再確認する

Ⅳ 祭礼が示す境界の変化

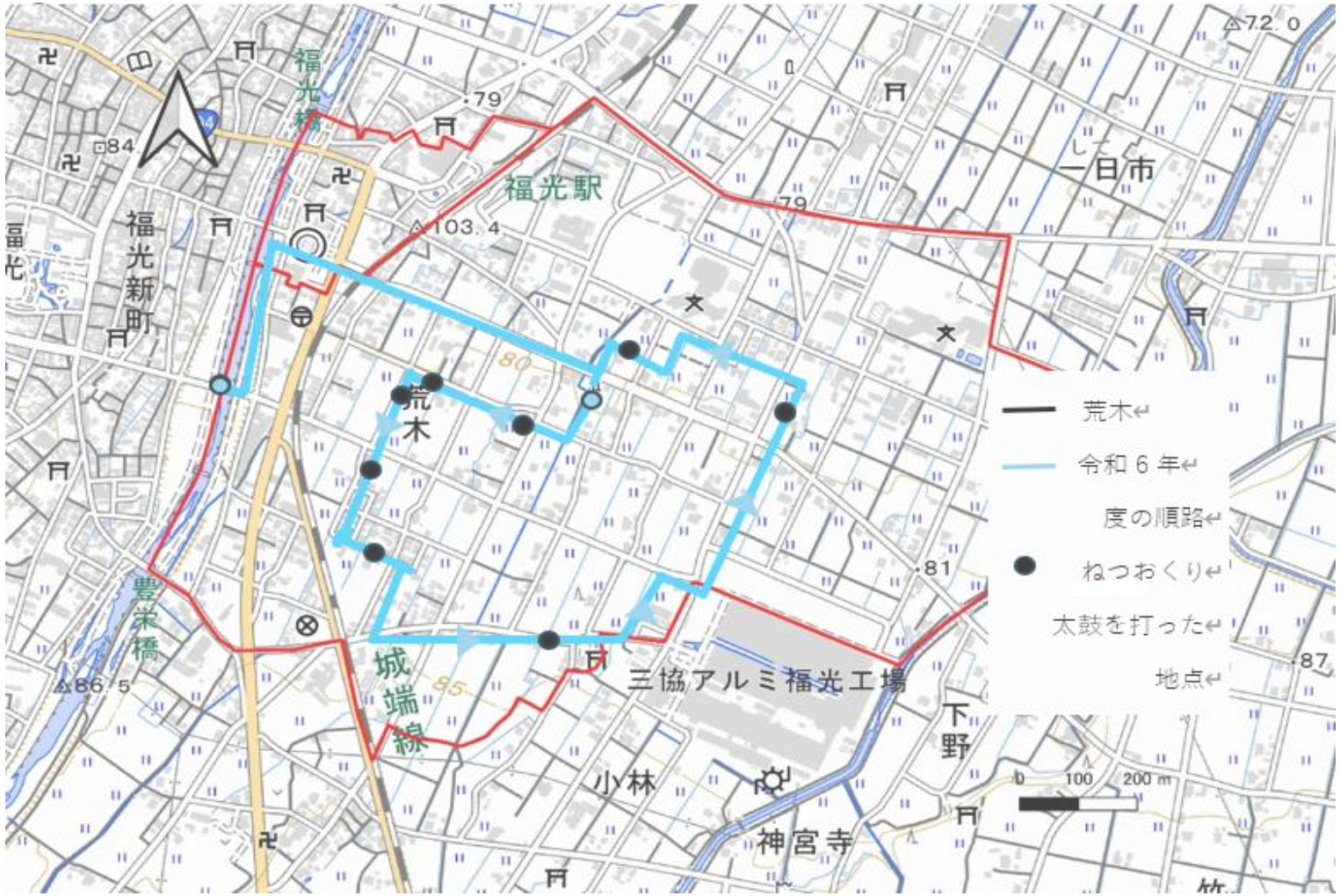

図9 令和6年度のねつおくり太鼓道

（国勢調査，聞き取り調査により作成）．

Ⅳ 祭礼が示す境界の変化

現在，境の場所は意識されていなかった(聞き取り)

境の場所の意味の伝承が断絶→祭礼から失われた

・祭礼において，ムラ境を再確認できるものを消失
・ムラ境を認識，再生産できない
　→非農家は順路を慣習としてしか扱えなかった

境の場所が消失し，精神的ムラ境が再生産されなくなったことが順路の短縮に現れていたと考える.

Ⅴ まとめ

祭礼に象徴された精神的ムラ境の変化

・兼業化による農業労働力の減少

→生産活動の場の転換と耕地面積の減少

農家の社会空間を希薄化させた

・集落の都市化と都市的生活様式の浸透

・非農家は農家の境界認知を持たなかった

→境界認知が消滅しつつあったことに起因

Ⅴ まとめ

祭礼に象徴された精神的ムラ境の変化

- 境の場所の，意味の伝承の断絶
- 祭礼における境の場所の喪失

→精神的ムラ境の認識，再生産がされない

境界認知の消滅と順路の短縮

今後の課題

・現在，ムラ境はどのように認識されているのかを十分把握し，検討できなかった.

・イベント化との関連を検討するまでに至らなかった

住民らへの幅広い調査やイベント化との関連を検討することが必要

文献

小口千明 1985．農村集落における精神的ムラ境の諸相－茨城県佐倉村における虫送りと道切りを事例として―．城西人文研究12: 37-51.

加藤享子 2020．南砺市福光地域のネツオクリ:昭和三十年代を中心として.富山民俗94: 11-18.

倉沢進 1987．都市的生活様式論．鈴木広・倉沢進・秋元律郎編『都市化の社会学理論―シカゴ学派からの展開―』293-308．ミネルヴァ書房.

新藤正夫1971．工場の進出に伴なう地域社会の変容:農工一体化の事例研究（その2）．地域開発問題研究2：94-102.

高取正男 1972．『民俗のこころ』朝日新聞社.

鳥越皓之 1976．部落・町内の境界（序）．ソシオロジ21（2）:58-73.

文献

西村忠 2013.　『虫送り・熱送りとはなにか』西村忠.

浜谷正人 1988.　『日本村落の社会地理』古今書院.

渡辺兵力 1958.　兼業化と農業生産.　農業綜合研究 12（3）：47-80

八木康幸 1984.　村境の象徴論的意味.　人文論究 34（3）：1-22.

吉田禎吾 1977.　よそ者・来訪者の観念.　伊東俊太郎・井上光貞・梅棹忠夫・岡田英弘・木村尚三郎・佐伯彰一・鯖田豊之・M.B.ジャンセン・高階秀爾・芳賀　徹・林屋辰三郎・増田義朗編『講座・比較文化 第6巻 日本人の社会』397-407.　研究社.